

## 「流しそうめん 抹茶アイスを作る」 を通して

人間科学部 人間科学科 2年  
堀内 遼基

〈当日のアイス作り〉

私は今回、6月1日に行われた留学生の交流を目的とした料理教室「流しそうめん 抹茶アイスを作る」に参加しました。準備から本番と、5月から短い準備期間ではありましたが協力させていただきとても有意義であったと感じています。準備や本番とで何があったか、何を感じたかを書いていこうと思います。

### 【準備段階にて】

まず、準備ですが。何をするかと言えば。会議にて、何が必要であるかを検討や現場で使う法被や竹を模したプラスチック製の樋を確認。当日とリハールでの日程を決める。そして、この交流会に留学生の方を誘うために声掛けをするといったものです。ただ、少しかハプニングもありました。当初、この料理教室は10号館にて開催予定でしたが、学食の都合もあり、19号館のラックスに変更となる事がありました。それを除けば特に大きな問題もなく準備は進み、無事リハールを行うことができました。参加してくださった留学生の方々的人数も期待以上であり、当日の雰囲気はとても良かったと感じています。私自身、イベントの運営側に参加すること自体が初めての経験であり、少し不安もありましたが。杞憂であるどころか、イベントを行う上でどんなことをする必要があるのかなど、中々に実用的な経験ができました。実際に



〈会議の様子〉

自分がイベントを企業の中で行うといった機会があれば間違いなく生きる経験である事を思うと、短い準備期間であっても無駄では無かったと感じています。

### 【リハールにて】

5月30日のリハールでは、当日の流れの確認や実際に樋の組み立てそこにそうめんを流したり、何処に何を配置するのかを決めました。他にも、樋の足にガムテープを張って補強をおこなうのと、そうめんを流す練習を少しだけ行ったりもしました。少し練習をしておかないと、そうめんを流す頻度が早すぎたりすることがあるので意外と重要でした。水漏れしやすい箇所も少し存在していたこともあり、施



(水もれへの対策)

設を汚さないために対処、組み立てないとわからない問題が細かいものではありましたが出てきました。竹を模したプラスチック製の樋なのですが、思いのほか再現度が高く、触りさえしなければプラスチックである事がわからないほど出来がよく、そこに水が流れると見た目はとても涼しげでした。他にも、樋の下流部分では流れが急になることから、箸に慣れていない方々なるべく上流の方にいてもらう必要がある事が判明しました。こうしてみると実際にしないといけない問題も多いために当日直前で無かった事は良かったと思えます。あまりに早く行っても流れを忘れてしまうかもしれないこと、施設を貸し切っ行うために何度も簡単にはできない事を踏まえるとよい日程だったのかもしれないと感じています。

## 【本番】

2日後に行われた交流会イベントでは、リハール通りにそうめんを流すのは勿論の事、抹茶アイ

スを作り食べました。また当日では流しそうめんはテーブルごとに順番に行うため、待ち時間が発生するのですが、その時に食べる焼きそばやホットドック、唐揚げを学食の方々が提供してくださりました。待ち時間で食べ物を食べながら、留学生の方々は楽しそうに談笑していました。ただ、今にして思えばこの待ち時間で何かビンゴといったゲームができたのではないだろうかとも考えます。そうめんはとても好評でした。流れてくるそうめんを箸でとる体験自体はそうないと思いますし、新鮮な体験となっていれば幸いです。抹茶アイス作りもとても楽しそうでした。アイスづくりで材料を袋に入れて、水を入れた状態でシェイクするのですが、皆で回しながらシェイクしていて。皆で作った手作りアイスはとてもおいしかったです。

私自身は、正直かなり圧倒されていました。留学生の方が50名ほど集まる状況そのものに遭遇することが初めてであること、語学力の低さから思うようにコミュニケーションができませんでした。もう少ししっかりと語学を学んでおけば、もう少し会話もできたかと思うと貴重な機会であったために悔やまれますし、今後の課題でもある事を痛感しました。イベントそのものは自分とは違う価値観や考え方を持った方々との交流であるため、とても楽しく有意義に感じています。ただし、

それを私は活かしている事ができませんでした。英語が苦手である事が致命的なことになったというのを感じるにはとてもいい機会になりました。輪を広げるためにも、語学を学ぶことの大切さを知ったのが、今回イベントに参加させて頂いたうえで一番の収穫でした。当たり前の事ではあるのですが、身をもつて思い知る機会がなかった私にとってはとても良い体験でした。

これからもまた、交流会といった国際色が豊かな催し物があると思います。その時までに少しでも語学を身に付けられればと思います。もちろん、そうでもない活動であっても極力参加していつて自身の経験を増やしていきたいと思っています。



(集合写真)